

第6章 「自身の人生」「日本社会・政治」「学歴・年収」から見たむつ市・おいらせ町の若者

岩田 考（桃山学院大学）

6-1. はじめに

本章では、3つの観点からむつ市と上北郡おいらせ町の若者の意識について分析を行う。まず第一に、「自身の人生に関する評価（問8）」や「人生に関する価値観（問9）」など自身の人生に関する意識である。第二に、「日本社会と政治に対する評価（問13）」や「日本社会と政治にかかわる価値観（問14）」など日本社会や政治に関する意識である。最後に、回答者の社会経済的な側面をとらえる「学歴（F19）」と「年収（F25）」に関しても分析を行う。

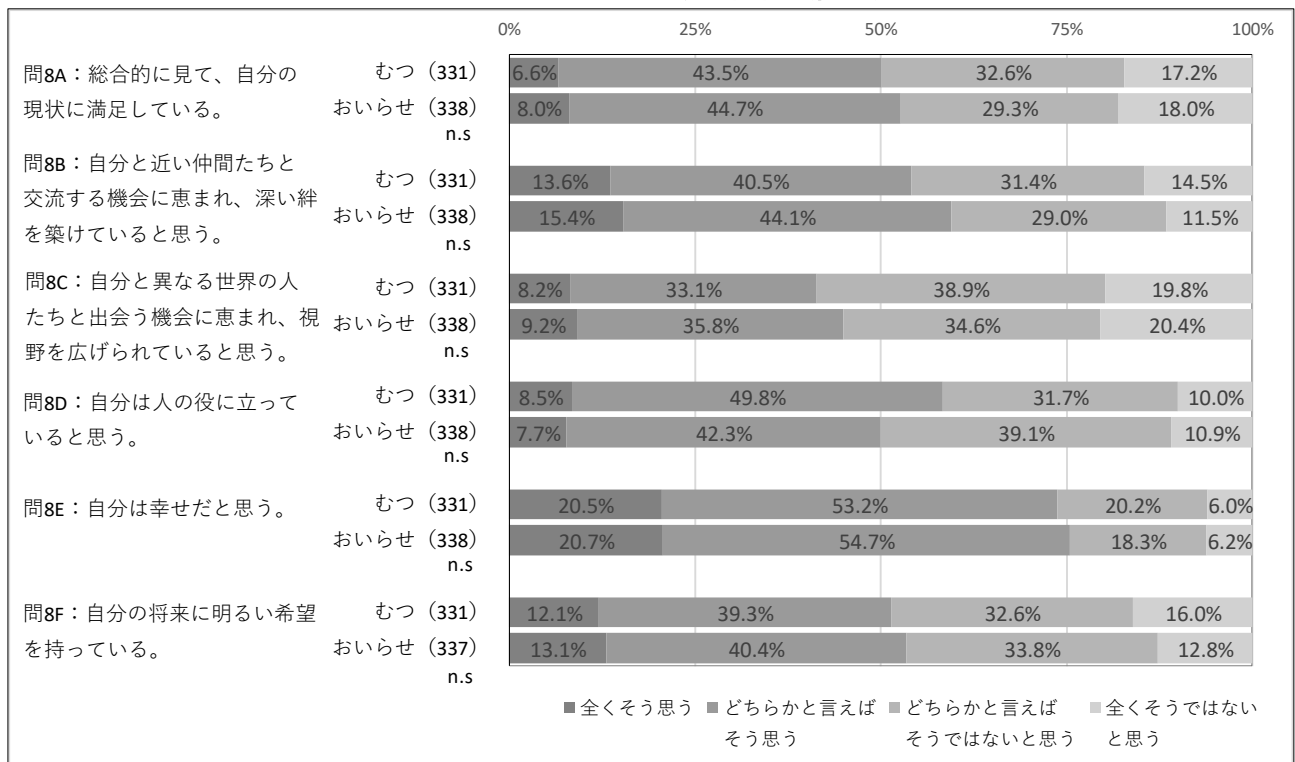
各領域の大まかな回答傾向をとらえるとともに、地域社会の多様性をとらえる類型として、本調査のもとにもなった轡田（2016, 2017）の広島調査において提起された「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型化の妥当性についても若干の検討を加える。

6-2. 自身の人生に関する意識（問8・問9）

(1) 自身の人生に対する評価（問8）

まずは、「自身の人生に対する評価（問8）」についてみてみよう。図1に示したように、「自身の人生に対する評価」に関して、6つの質問を行った。6項目すべてにおいて、2つの地域（むつ市と上北郡おいらせ町）で有意差は見られなかった（ χ^2 検定5%水準）。

図1 自身の人生に対する評価（問8）



注) () 内は回答者数。「n. s.」は、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差なし。

肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が高い項目は、「E 自分は幸せだと思う。」で、7割以上が肯定的回答をしている（むつ市73.7%・おいらせ町75.4%）。約4分の3の若者が幸福だと考えており、幸福度は高くなっている。また、肯定的回答の割合が低い項目は、「C 自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」で、肯定率は約4割にとどまっている（むつ市41.3%・おいらせ町45.0%）。両地域とも異質な他者との出会いの機会はあまり多とは言えないようである。

本調査では、むつ市とおいらせ町を特性が異なる地域と位置付け調査を行った。轡田（2017）の区分に基づけば、むつ市は「条件不利地域圏」、おいらせ町は「地方中枢拠点都市圏」に概ねあてはまる。轡田によれば、「地方中枢拠点都市圏」とは、「30万人以上の基準を満たす都市雇用圏（三大都市圏以外）」であり、「条件不利地域圏」は「『地方中枢拠点都市圏』から外れる地方圏の地域」である（轡田2017:61-2）。「自身の人生等に対する評価」に関しては、6項目すべてにおいて2つの地域に有意差はみられず、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分は、地方の多様性をとらえようとする上で、あまり有効とは言えない。

(2) 自身の人生に対する評価（問8）：広島調査との比較

表1は、「自身の人生に対する評価（問8）」について、轡田（2016）が行った広島調査の2地域と比較したものである。先の区分で言えば、三次市が「条件不利地域圏」であり、安芸郡府中町が「地方中枢拠点都市圏」にあたる。轡田の分析によれば、「B 自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。」「C 自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」において、三次市よりも府中町でポジティブな傾向がみられたとされる（轡田2016:124-5）。

青森の2地域も含め比較してみると、4地域とも回答分布は、かなり類似しているといえよう。あえて差異を見出すとすれば、「A 総合的に見て、自分の現状に満足している。」と「E 自分は幸せだと思う。」において、青森の2地域よりも広島の2地域のほうが、肯定的な回答の割合がやや高くなっている。

この結果からは、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分よりも、「青森／広島」あるいは「東北地方／中国地方」という区分のほうが、「自身の人生に対する評価」の差異を分析するうえでは有効な可能性があるといえよう。

表1 自身の人生に対する評価（問8）：広島調査との比較

		全くそう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそうではない と思う	全くそうではな いと思う	計
問8A：総合的に見て、自分の現状に満足している。	むつ（331）	6.6%	43.5%	32.6%	17.2%	100.0%
	おいらせ（338）	8.0%	44.7%	29.3%	18.0%	100.0%
	三次市（広島）	10.6%	48.4%	12.6%	13.9%	85.5%
	府中町（広島）	10.7%	51.4%	25.3%	12.7%	100.1%
問8B：自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。	むつ（331）	13.6%	40.5%	31.4%	14.5%	100.0%
	おいらせ（338）	15.4%	44.1%	29.0%	11.5%	100.0%
	三次市（広島）	12.6%	44.5%	29.9%	13.0%	100.0%
	府中町（広島）	13.4%	46.4%	30.0%	10.2%	100.0%
問8C：自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。	むつ（331）	8.2%	33.1%	38.9%	19.8%	100.0%
	おいらせ（338）	9.2%	35.8%	34.6%	20.4%	100.0%
	三次市（広島）	6.5%	25.8%	45.6%	22.1%	100.0%
	府中町（広島）	5.7%	30.0%	43.2%	21.0%	99.9%
問8D：自分は人の役に立っていると思う。	むつ（331）	8.5%	49.8%	31.7%	10.0%	100.0%
	おいらせ（338）	7.7%	42.3%	39.1%	10.9%	100.0%
	三次市（広島）	5.4%	42.2%	41.5%	10.9%	100.0%
	府中町（広島）	4.0%	42.7%	40.7%	12.7%	100.1%
問8E：自分は幸せだと思う。	むつ（331）	20.5%	53.2%	20.2%	6.0%	100.0%
	おいらせ（338）	20.7%	54.7%	18.3%	6.2%	100.0%
	三次市（広島）	24.7%	56.8%	12.4%	6.1%	100.0%
	府中町（広島）	26.1%	54.8%	13.9%	5.2%	100.0%
問8F：自分の将来に明るい希望を持っている。	むつ（331）	12.1%	39.3%	32.6%	16.0%	100.0%
	おいらせ（337）	13.1%	40.4%	33.8%	12.8%	100.0%
	三次市（広島）	12.4%	40.7%	34.3%	12.6%	100.0%
	府中町（広島）	12.7%	43.2%	31.5%	12.7%	100.1%

注）（ ）内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。ただし、三次市の「A総合的に見て、自分の現状に満足している。」は合計で85.5%であり、報告書の記載ミスの可能性はある。

(3) 基本属性別にみた「自身の人生に対する評価（問8）」

次に、基本属性別に「自身の人生に対する評価」をみてみよう（表2）。ここでは、性別（男／女）、年齢（実数）、婚姻（独身／既婚）、学歴（在学中も含む。大学・短大卒＝「在学中（大学または大学院）」「在学中（短大または高専）」「大学卒または大学院卒」「短大卒または高専卒」・非大学／短大卒＝「在学中（専門学校）」「専門学校卒」「高卒」「中卒」「その他」）、世帯収入（カテゴリーの中央の値。「100万円以上」は1100万円に変換。）、移動歴（ずっと地元／Uターン／Iターン）をとりあげる。

世帯収入と学歴で有意差がみられる項目が多くなっている。世帯収入が高いほうが、多くの点で「自身の人生」を肯定的に評価する傾向がみられる。特に、むつ市でその傾向が強い。また、大学・短大卒のほうが、「C 自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」「D 自分は人の役に立っていると思う。」を肯定する割合が高くなっている。

表2 基本属性別にみた「自身の人生に対する評価（問8）」

		問8A：総合的に見て、自分の現状に満足している。	問8B：自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。	問8C：自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。	問8D：自分は人の役に立っていると思う。	問8E：自分は幸せだと思う。	問8F：自分の将来に明るい希望を持っている。
性別 男・女 (χ^2 乗検定)	むつ				女<男		
	おいらせ						
年齢 (相関係数)	むつ	低<高					
	おいらせ						
婚姻 結婚・独身 (χ^2 乗検定)	むつ	独身<結婚				独身<結婚	
	おいらせ			有意差あり			
学歴（在学含む） 大学・短大／非大学・短大 (χ^2 乗検定)	むつ			非大学<大学	非大学<大学		
	おいらせ			非大学<大学	非大学<大学		
世帯収入（階級値） (相関係数)	むつ		低<高	低<高	低<高	低<高	低<高
	おいらせ	低<高			低<高		低<高
移動歴 地元/Uターン/Iターン (χ^2 乗検定)	むつ				地元<U<I		
	おいらせ			地元<I≤U			

注)「<」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

(4) 人生に関する価値観（問9）

次に、「人生に関する価値観（問9）」についてみてみよう。図2のように、「人生に関する価値観」について5つの質問を行った。 χ^2 検定を行ったところ、「自身の人生に対する評価（問8）」と同様に、5項目すべてにおいて、2地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった。

肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が高い項目は、「B 今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。」で、肯定率8割以上となっている（むつ市84.7%・おいらせ町81.6%）。また、「A 今後の人生では、無理をしても、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」は、肯定率が約4割にとどまっている（むつ市38.3%・おいらせ町37.1%）。「堅実志向」が強く、「チャレンジ志向」は弱いという傾向がみられ、これは轡田（2016）の広島調査と同様な傾向である。

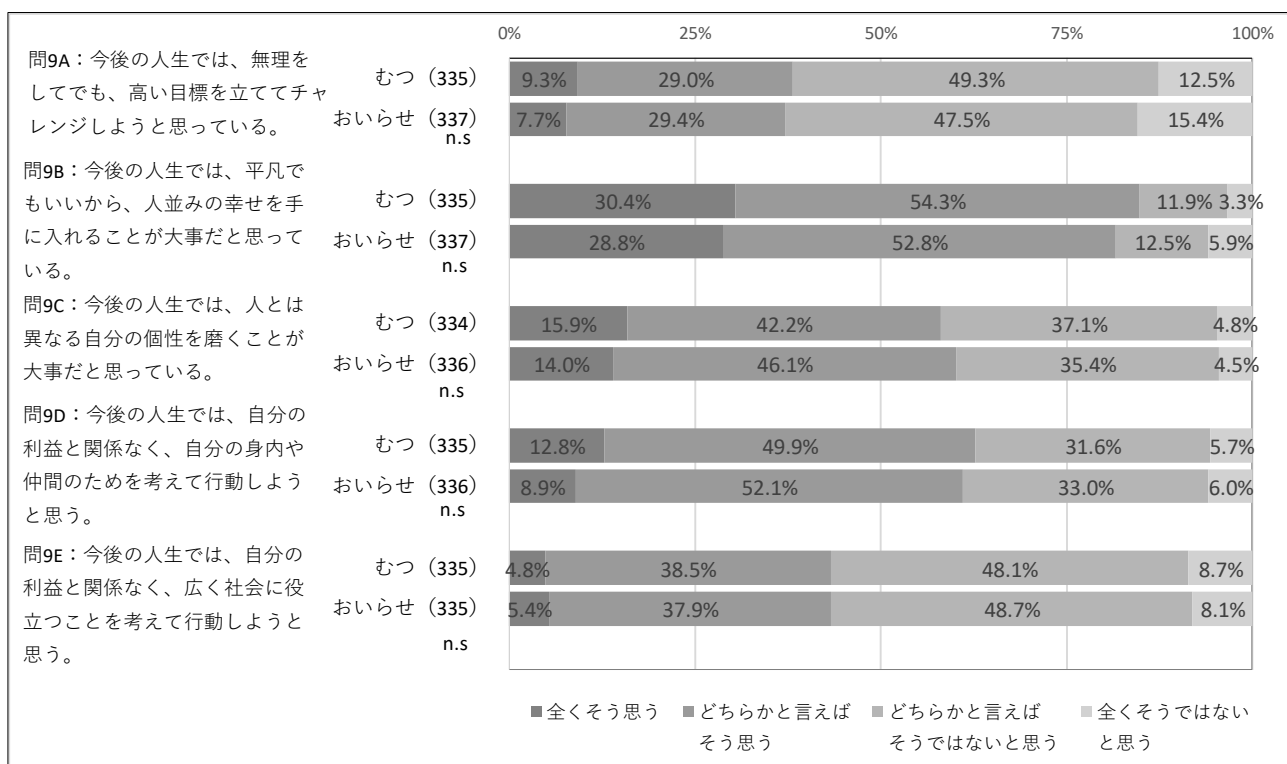


図2 人生に関する価値観（問9）

注) () 内は回答者数。「n.s.」は、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差なし。

(5) 人生に関する価値観（問9）：広島調査との比較

表3は、「人生に対する価値観（問9）」について、轡田（2016）が行った広島調査の2地域と比較したものである。轡田の分析によれば、「A 今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」において、三次市よりも府中町でポジティブな傾向がみられたとされる（轡田2016:124-5）。

青森の2地域も含め比較すると、4地域とも回答分布は、かなり類似している。この結果をみると、地方における多様性をとらえようとする「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分は、「人生に対する価値観（問9）」の差異を分析するうえでも必ずしも有効とは言えないようである。

表3 人生に関する価値観（問9）：広島調査との比較

		人生に関する価値観（問9）				計
		全くそう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそうではない と思う	全くそうではな いと思う	
問9A：今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。	むつ（335）	9.3%	29.0%	49.3%	12.5%	100.0%
	おいらせ（337）	7.7%	29.4%	47.5%	15.4%	100.0%
	三次市（広島）	6.1%	32.3%	49.9%	11.7%	100.0%
	府中町（広島）	8.9%	32.8%	47.1%	11.2%	100.0%
問9B：今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。	むつ（335）	30.4%	54.3%	11.9%	3.3%	100.0%
	おいらせ（337）	28.8%	52.8%	12.5%	5.9%	100.0%
	三次市（広島）	25.8%	61.8%	9.8%	2.6%	100.0%
	府中町（広島）	24.3%	61.0%	12.7%	2.0%	100.0%
問9C：今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。	むつ（334）	15.9%	42.2%	37.1%	4.8%	100.0%
	おいらせ（336）	14.0%	46.1%	35.4%	4.5%	100.0%
	三次市（広島）	10.8%	44.5%	39.3%	3.4%	98.0%
	府中町（広島）	10.4%	42.7%	42.9%	4.0%	100.0%
問9D：今後の人生では、自分の利益と関係なく、自分の身内や仲間のためを考えて行動しようと思う。	むつ（335）	12.8%	49.9%	31.6%	5.7%	100.0%
	おいらせ（336）	8.9%	52.1%	33.0%	6.0%	100.0%
	三次市（広島）	9.1%	55.3%	30.8%	4.8%	100.0%
	府中町（広島）	9.0%	50.2%	36.8%	4.0%	100.0%
問9E：今後の人生では、自分の利益と関係なく、広く社会に役立つことを考えて行動しようと思う。	むつ（335）	4.8%	38.5%	48.1%	8.7%	100.0%
	おいらせ（335）	5.4%	37.9%	48.7%	8.1%	100.0%
	三次市（広島）	5.0%	36.4%	49.7%	8.9%	100.0%
	府中町（広島）	4.5%	35.6%	50.5%	9.5%	100.1%

注）（ ）内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。ただし、三次市の「C今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。」は合計で98.0%であり、報告書の記載ミスの可能性がある。

(6) 基本属性別にみた「人生に関する価値観（問9）」

表4は、性別、年齢、婚姻、学歴、世帯収入、移動歴ごとに「人生に関する価値観」をみたものである。全体として、基本的な属性との関係で、有意差がみられる項目は少ない。有意差が見られるのは、性別が最も多く、女性より男性で「A 今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」を肯定する割合が高くなっている。さらに、おいらせ町では、男性よりも女性で「B 今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。」を肯定する割合が高い。男性のほうが「チャレンジ志向」が強く、女性のほうが「堅実志向」が強い傾向がみられる。また、世帯収入では、むつ市において、世帯収入が高いほうが「チャレンジ志向」が強く、世帯収入が低いほうが「堅実志向」が強くなっている。

表4 基本属性別にみた「人生に関する価値観（問9）」

		問9A：今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。	問9B：今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。	問9C：今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。	問9D：今後の人生では、自分の利益と関係なく、自分の身内や仲間のために考えて行動しようと思う。	問9E：今後の人生では、自分の利益と関係なく、広く社会に役立つことを考えて行動しようと思う。
性別 男／女 (χ^2 乗検定)	むつ	女<男				
	おいらせ	女<男	男<女	女<男		
年齢（実数） （相関係数）	むつ					
	おいらせ	高く低				
婚姻 既婚／独身 (χ^2 乗検定)	むつ					
	おいらせ				独身<結婚	
学歴（在学含む） 大学・短大／非大学・短大 (χ^2 乗検定)	むつ					
	おいらせ					
世帯収入（階級値） （相関係数）	むつ	低<高	高<低			
	おいらせ					
移動歴 地元／Uターン／Iターン (χ^2 乗検定)	むつ					
	おいらせ					

注)「<」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

6-3. 日本社会と政治（問13・問14）

次に、日本社会や政治に関する意識についてみてみることにしよう。

(1) 日本社会と政治に対する評価（問13）

図3に示したように、「日本社会と政治に対する評価（問13）」に関して9つの質問を行った。 χ^2 検定を行ったところ、9項目すべてにおいて、2つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった。

肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が高いのは、「B 日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。」で、約7割が肯定的な回答をしている（むつ市73.3%・おいらせ町67.3%）。逆に、肯定的な回答の割合が低いのは、「G 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。」（むつ市15.4%・おいらせ町16.4%）、「H 将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。」（むつ市17.5%・おいらせ町13.4%）、「A 総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。」（むつ市18.7%・おいらせ町18.8%）で、肯定率は2割を切っている。

日本を、全般としては安全で安心な社会としつつも、原発事故など個別の点に関しては不安を抱いている人々も少なくないようである。また、社会や政治に対して満足している人の割合は、少なくなっている。

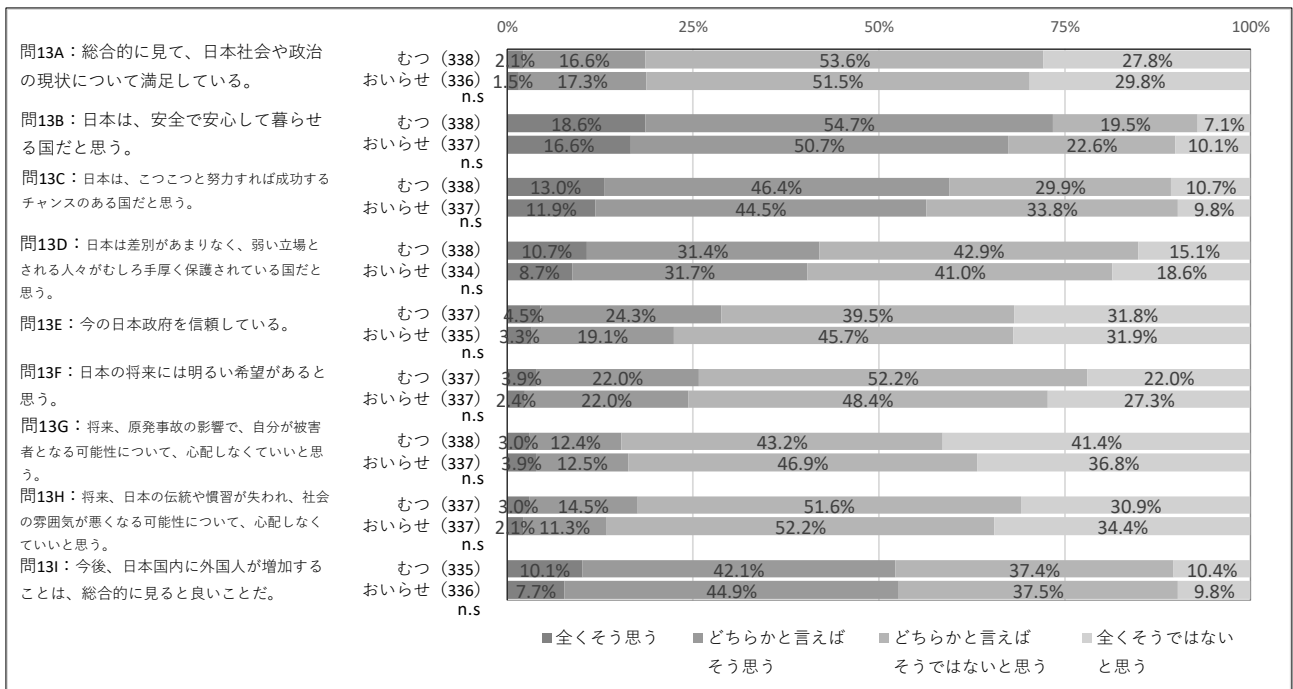


図3 日本社会と政治に対する評価（問13）

注) () 内は回答者数。n. s. は、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差なし。

(2) 日本社会と政治に対する評価（問13）：広島調査との比較

表5は、「日本社会と政治に対する評価（問13）」について、轡田（2016）が行った広島調査の2地域と比較したものである。轡田の分析によれば、三次市と府中町で有意差がみられるのは3項目である。「G 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。」

「H 将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。」では、三次市より府中町のほうがポジティブな傾向がみられ、「I 今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。」では府中町より三次市でポジティブな傾向がみられたとされる（轡田2016:122-3）。ただし、3項目とも差異はそれほど大きいとは言えない。

青森の2地域も含め比較すると、4地域とも回答分布は、かなり類似している。原発の問題がより身近だと思われる青森の2地域と広島2地域の間で、「G 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。」に関してですら、それほど大きな差がみられないのは、やや意外である。もちろん、詳細にみると、「E 今の日本政府を信頼している。」で、広島2地域よりも青森の2地域のほうが肯定的な割合が若干高くなるなど、地域間で差異がまったくみられないわけではない。

しかしながら、この結果からも、地方における差異を分析するうえで「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分が非常に有効だとは言えることは難しい。

(3) 基本属性別にみた「日本社会と政治に対する評価（問13）」

表6は、性別、年齢、婚姻、学歴、世帯収入、移動歴ごとに「日本社会と政治に対する評価（問13）」をみたものである。性別および学歴において、有意差がみられる項目が多くなっている。ただし、性別では有意差が見られるものの、明確な傾向がみられない項目も多くなっている。学歴では、「非大学・短大卒」よりも「大学・短大卒」で、「日本社会と政治」に対する肯定的評価の割合が高い傾向がみられる。

表5 日本社会と政治に対する評価（問13）：広島調査との比較

		全くそう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそうではない と思う	全くそうではな いと思う	計
問13A：総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。	むつ (338)	2.1%	16.6%	53.6%	27.8%	100.0%
	おいらせ (336)	1.5%	17.3%	51.5%	29.8%	100.0%
	三次市 (広島)	1.1%	16.1%	45.1%	37.7%	100.0%
	府中町 (広島)	1.0%	15.6%	49.1%	34.4%	100.1%
問13B：日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。	むつ (338)	18.6%	54.7%	19.5%	7.1%	100.0%
	おいらせ (337)	16.6%	50.7%	22.6%	10.1%	100.0%
	三次市 (広島)	13.9%	58.1%	19.7%	8.2%	99.9%
	府中町 (広島)	20.1%	59.6%	14.1%	6.2%	100.0%
問13C：日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う。	むつ (338)	13.0%	46.4%	29.9%	10.7%	100.0%
	おいらせ (337)	11.9%	44.5%	33.8%	9.8%	100.0%
	三次市 (広島)	11.5%	44.9%	34.2%	9.4%	100.0%
	府中町 (広島)	9.5%	48.8%	33.3%	8.5%	100.1%
問13D：日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしろ手厚く保護されている国だと思う。	むつ (338)	10.7%	31.4%	42.9%	15.1%	100.0%
	おいらせ (334)	8.7%	31.7%	41.0%	18.6%	100.0%
	三次市 (広島)	8.5%	34.9%	42.5%	14.1%	100.0%
	府中町 (広島)	9.0%	33.6%	40.8%	16.7%	100.1%
問13E：今の日本政府を信頼している。	むつ (337)	4.5%	24.3%	39.5%	31.8%	100.0%
	おいらせ (335)	3.3%	19.1%	45.7%	31.9%	100.0%
	三次市 (広島)	1.7%	15.9%	44.6%	37.8%	100.0%
	府中町 (広島)	1.5%	17.6%	45.7%	35.2%	100.0%
問13F：日本の将来には明るい希望があると思う。	むつ (337)	3.9%	22.0%	52.2%	22.0%	100.0%
	おいらせ (337)	2.4%	22.0%	48.4%	27.3%	100.0%
	三次市 (広島)	2.4%	21.1%	49.6%	27.0%	100.1%
	府中町 (広島)	2.5%	20.9%	51.0%	25.6%	100.0%
問13G：将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。	むつ (338)	3.0%	12.4%	43.2%	41.4%	100.0%
	おいらせ (337)	3.9%	12.5%	46.9%	36.8%	100.0%
	三次市 (広島)	3.0%	11.7%	39.6%	45.7%	100.0%
	府中町 (広島)	3.5%	14.4%	47.4%	34.7%	100.0%
問13H：将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。	むつ (337)	3.0%	14.5%	51.6%	30.9%	100.0%
	おいらせ (337)	2.1%	11.3%	52.2%	34.4%	100.0%
	三次市 (広島)	1.1%	10.7%	47.8%	40.4%	100.0%
	府中町 (広島)	2.7%	14.1%	46.2%	37.0%	100.0%
問13I：今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。	むつ (335)	10.1%	42.1%	37.4%	10.4%	100.0%
	おいらせ (336)	7.7%	44.9%	37.5%	9.8%	100.0%
	三次市 (広島)	7.8%	41.2%	37.7%	13.2%	99.9%
	府中町 (広島)	5.5%	39.9%	39.2%	15.5%	100.1%

注) () 内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。

表6 基本属性別にみた「日本社会と政治（問13）」

		問13A：総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。	問13B：日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。	問13C：日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う。	問13D：日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしる手厚く保護されている国だと思う。	問13E：今の日本政府を信頼している。	問13F：日本の将来には明るい希望があると思う。	問13G：将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。	問13H：将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。	問13I：今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。
性別 男/女 (χ^2 乗検定)	むつ			有意差あり		女<男				
	おいらせ	有意差あり		有意差あり		有意差あり				
年齢(実数) (相関係数)	むつ							高<低		男<女
	おいらせ									高<低
婚姻 既婚/独身 (χ^2 乗検定)	むつ				有意差あり					
	おいらせ								独身<結婚	
学歴(在学含む) 大学・短大/非大学・短大 (χ^2 乗検定)	むつ		非大学<大学			非大学<大学				
	おいらせ	非大学<大学				非大学<大学				非大学<大学
世帯収入(階級値) (相関係数)	むつ				低<高					
	おいらせ				低<高					低<高
移動歴 地元/Uターン/Iターン (χ^2 乗検定)	むつ									
	おいらせ				地元<I<U			地元=U<I		

注)「<」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

(4) 日本社会と政治にかかわる価値観（問14）

図4に示したように、「日本社会や政治にかかわる価値観（問14）」について3つの質問を行った。「日本社会と政治に関する評価」と同様、3項目すべてにおいて、2つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差はみられなかった（ χ^2 検定5%水準）。

3項目とも肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が5割を超えている。統計的に有意な差ではないが、むつ市のほうが、いずれの項目においても、肯定率が若干高くなっている。

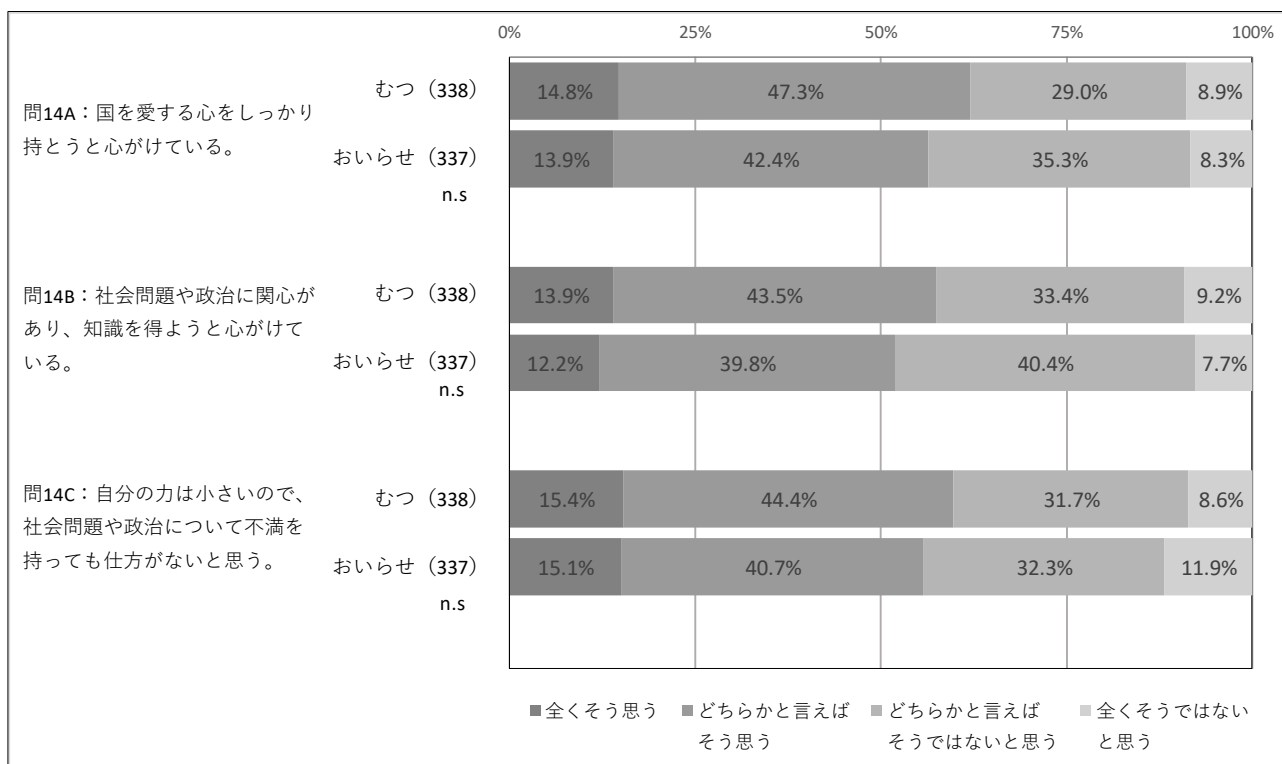


図4 日本社会と政治にかかわる価値観（問14）

注) () 内は回答者数。n. s. は、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差なし。

(5) 日本社会と政治にかかわる価値観（問14）：広島調査との比較

表7は、「日本社会と政治にかかわる価値観（問14）」について、轡田（2016）が行った広島調査の2地域と比較したものである。轡田の分析によれば、三次市と府中町で有意差がみられる項目はない（轡田2016:122-3）。

青森の2地域も含め比較してみると、4地域の回答分布が、かなり類似していることがわかる。あえて差異を見出すとすれば、3項目とも、広島の2地域よりも青森の2地域のほうが、積極的な肯定の割合が若干高くなっていることである。

この結果からは、「自身の人生に対する評価（問8）」と同様に、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分よりも、「青森／広島」あるいは「東北地方／中国地方」という区分のほうが、地域差を分析するうえでは有効な可能性があるといえるかもしれない。

表7 日本社会と政治にかかわる価値観（問14）：広島調査との比較

		全くそう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそうではない と思う	全くそうではな いと思う	計
問14A：国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。	むつ（338）	14.8%	47.3%	29.0%	8.9%	100.0%
	おいらせ（337）	13.9%	42.4%	35.3%	8.3%	100.0%
	三次市（広島）	12.7%	49.3%	31.2%	12.4%	105.6%
	府中町（広島）	12.2%	50.0%	31.1%	6.7%	100.0%
問14B：社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。	むつ（338）	13.9%	43.5%	33.4%	9.2%	100.0%
	おいらせ（337）	12.2%	39.8%	40.4%	7.7%	100.0%
	三次市（広島）	10.2%	41.5%	41.5%	6.7%	99.9%
	府中町（広島）	10.0%	42.2%	38.4%	9.2%	99.8%
問14C：自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。	むつ（338）	15.4%	44.4%	31.7%	8.6%	100.0%
	おいらせ（337）	15.1%	40.7%	32.3%	11.9%	100.0%
	三次市（広島）	13.3%	38.3%	34.2%	14.2%	100.0%
	府中町（広島）	12.4%	40.5%	36.1%	10.9%	99.9%

注）（ ）内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。ただし、三次市の「A国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」は合計で105.6%であり、報告書の記載ミスの可能性はある。

(6) 基本属性別にみた「日本社会と政治にかかわる価値観（問14）」

表8は、性別、年齢、婚姻、学歴、世帯収入、移動歴ごとに「日本社会と政治にかかわる価値観（問14）」をみたものである。性別で最も多く有意差がみられる。女性よりも男性のほうが、「A国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」「B社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。」で肯定率が高くなっている。また、移動歴別でも比較的多くの有意差がみられ（特にむつ市）、「A国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」「B社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。」で、「ずっと地元」に比べ「Iターン」で肯定率が高くなっている。逆に、「C自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。」では、「ずっと地元」の肯定率が高い。地元以外での居住経験がある者に比べ、地元以外での居住経験の無い地元層は、政治的な無力感が強い傾向があるといえよう。

表8 基本属性別にみた「日本社会と政治にかかわる価値観（問14）」

		問14A：国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。	問14B：社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。	問14C：自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持って仕方がないと思う。
性別 男/女 (χ^2 乗検定)	むつ	女<男	女<男	
	おいらせ	女<男	女<男	有意差あり
年齢（実数） （相関係数）	むつ			
	おいらせ			
婚姻 既婚/独身 (χ^2 乗検定)	むつ			
	おいらせ		独身<結婚	
学歴（在学含む） 大学・短大/非大学・短大 (χ^2 乗検定)	むつ			
	おいらせ			
世帯収入（階級値） （相関係数）	むつ		低<高	
	おいらせ	低<高	低<高	
移動歴 地元/Uターン/Iターン (χ^2 乗検定)	むつ	地元<U<I	地元<U<I	I<U<地元
	おいらせ			I<U<地元

注)「<」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

6-3. 学歴（F19）と年収（F25）

最後に、回答者の社会経済的な側面にかかわる属性項目である学歴と年収についてみてみることにしよう。

(1) 学歴（F19）

回答者の最終学歴は、図5のようになっている。 χ^2 検定を行ったところ、2つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった（その他を除いて検定）。

両地域とも「大卒または大学院卒」が約2割、「高卒」約4割となっている。統計的に有意な差でないものの、むつ市のほうが「大卒または大学院卒」および「高卒」の割合が若干高く、おいらせ町のほうが「短大または高専卒」「専門学校卒」の割合がやや高くなっている。

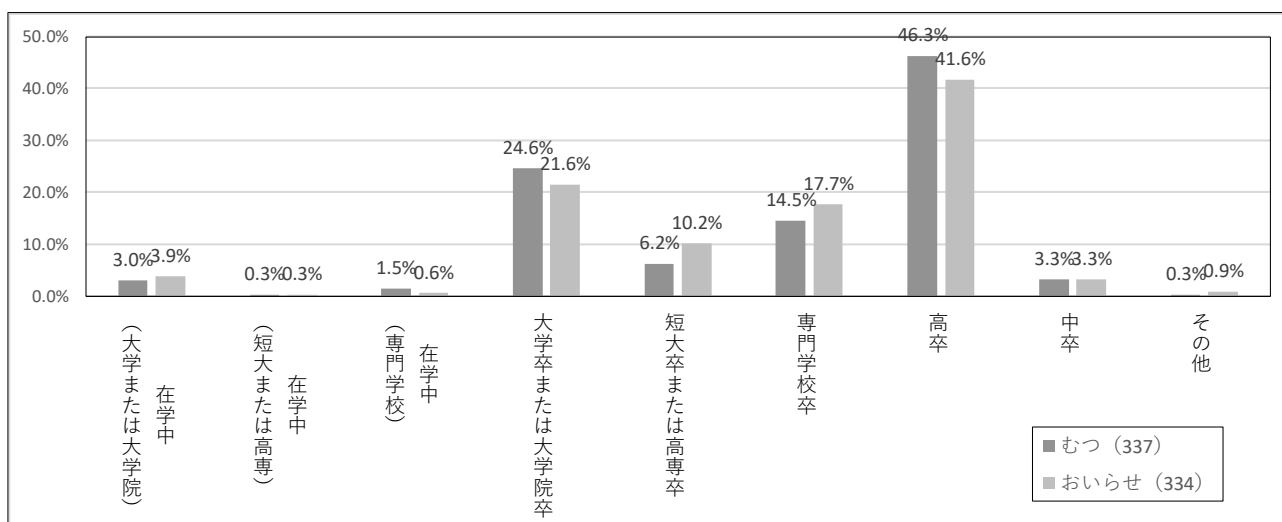


図5 学歴（F19）

注) () 内は回答者数。 χ^2 検定の結果（その他を除いて）、5%水準で有意差なし。

表9は、性別、年齢別、移動歴別に、学歴を（在学中も含む。大学・短大卒＝「在学中（大学または大学院）」「在学中（短大または高専）」「大学卒または大学院卒」「短大卒または高専卒」/非大学・短大卒＝「在学中（専門学校）」「専門学校卒」「高卒」「中卒」「その他」）みたものである。性別、年齢別では両地域とも有意差はみられなかった。移動歴別では、「ずっと地元層」で「非大学・短大卒」の割合が非常に高くなっている。

表9 属性（性・年齢・移動歴）別にみた「学歴（F19）」

area	性別		合計	年齢（20代前半・後半／30代前半・後半）				合計	居住歴			合計		
				男性	女性	20代前半	20代後半		30代前半	30代後半	ずっと地元		Uターン	Iターン
	学歴	非大学・短大		度数	列の%	度数	列の%		度数	列の%	度数		列の%	度数
むつ	非大学・短大	度数	116	106	222	45	45	58	74	222	74	87	56	217
		列の%	62.7%	69.7%	65.9%	64.3%	63.4%	61.1%	73.3%	65.9%	94.9%	57.2%	57.1%	66.2%
	大学・短大	度数	69	46	115	25	26	37	27	115	4	65	42	111
		列の%	37.3%	30.3%	34.1%	35.7%	36.6%	38.9%	26.7%	34.1%	5.1%	42.8%	42.9%	33.8%
合計	度数	185	152	337	70	71	95	101	337	78	152	98	328	
	列の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
おいらせ	非大学・短大	度数	103	109	214	31	53	41	87	212	68	63	72	203
		列の%	65.6%	61.6%	64.1%	52.5%	63.9%	60.3%	70.2%	63.5%	84.0%	51.6%	61.5%	63.4%
	大学・短大	度数	54	68	120	28	30	27	37	122	13	59	45	117
		列の%	34.4%	38.4%	35.9%	47.5%	36.1%	39.7%	29.8%	36.5%	16.0%	48.4%	38.5%	36.6%
合計	度数	157	177	334	59	83	68	124	334	81	122	117	320	
	列の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

注) χ^2 検定の結果、性別と年齢別に両地域ともに5%水準で有意差なし。移動歴は、両地域ともに5%水準で有意差あり。

図6は、轡田が実施した広島調査との関係をみたものである（轡田2016:130-1）。府中町に比べ、むつ市・おいらせ町ともに、大卒の割合が20ポイント程度低く、20ポイント以上高卒の割合が高くなっている。広島調査では、「条件不利地域圏」である三次市のほうが「地方中枢拠点都市圏」である府中町よりも、高卒の割合が高く、大卒の割合が低くなっているが、青森ではそのような傾向はみられない。統計的に有意ではないものの、「条件不利地域圏」のむつ市のほうが、むしろ大卒の割合がやや高くなっている。

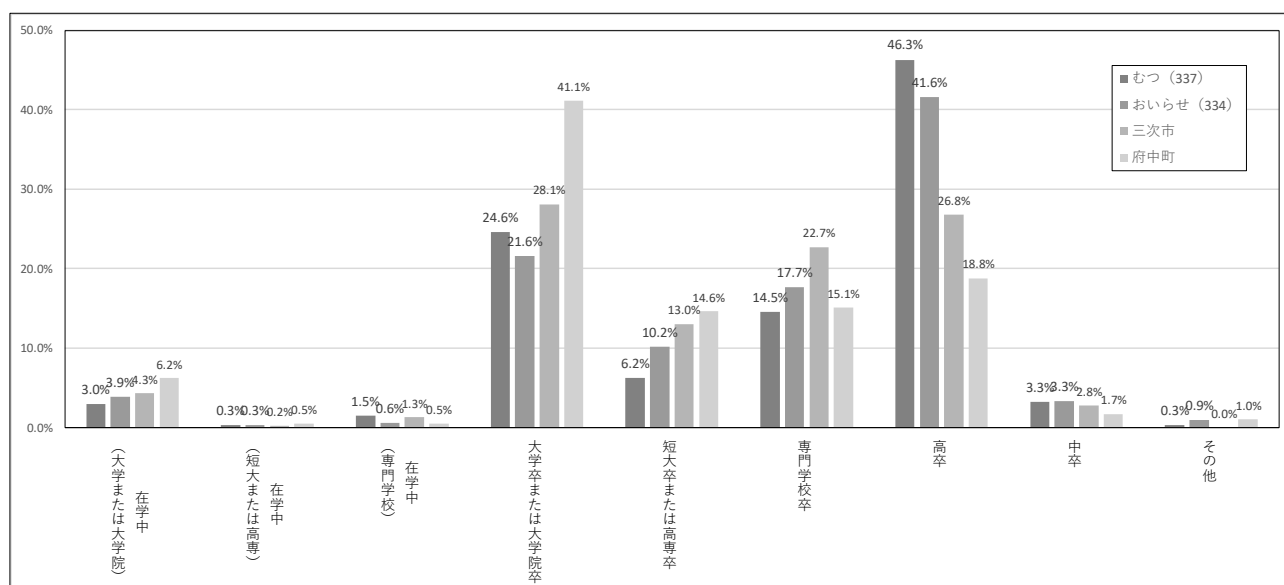


図6 学歴（F19）：広島調査との比較

注) () 内は回答者数。広島調査については、各質問の回答者数は明記されていないため不明。

「平成22年国勢調査」の結果をみても、おいらせ町の大卒の割合はむつ市よりも低くなっている。むつ市は「大卒・大学院卒+短大・高専卒」16.6%、「高校・旧中卒」45.1%、おいらせ町は「大卒・大学院卒+短大・高専卒」15.0%、「高校・旧中卒」50.9%となっている（既卒者における割合）。また、「平成29年度学校基本調査」をみても、大学等進学率は、むつ市41.3%（男性35.9%、女性46.3%）、おいらせ町10.8%（男性7.4%、女性13.8%）となっており、おいらせ町の大学進学率は青森県全体（44.6%）よりも、かなり低くなっている。

このような傾向は、「条件不利地域圏」や「地方中枢拠点都市圏」の多様性を表すものといえるかもしれないが、「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」という類型化に再検討を迫るものということもできるだろう。

(2) 個人年収 (F25_1)

回答者の個人収入は、図7のようになっている。χ²検定を行ったところ、2つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった。ただし、選択率が最も高かったのは、むつ市「200万円台」（22.9%）、おいらせ町「100万円台」（21.9%）となっている。階級値を使用して、平均値を求めると、むつ市280.7万円、おいらせ町265.2万円となっている。中央値は、ともに250.0万円である。

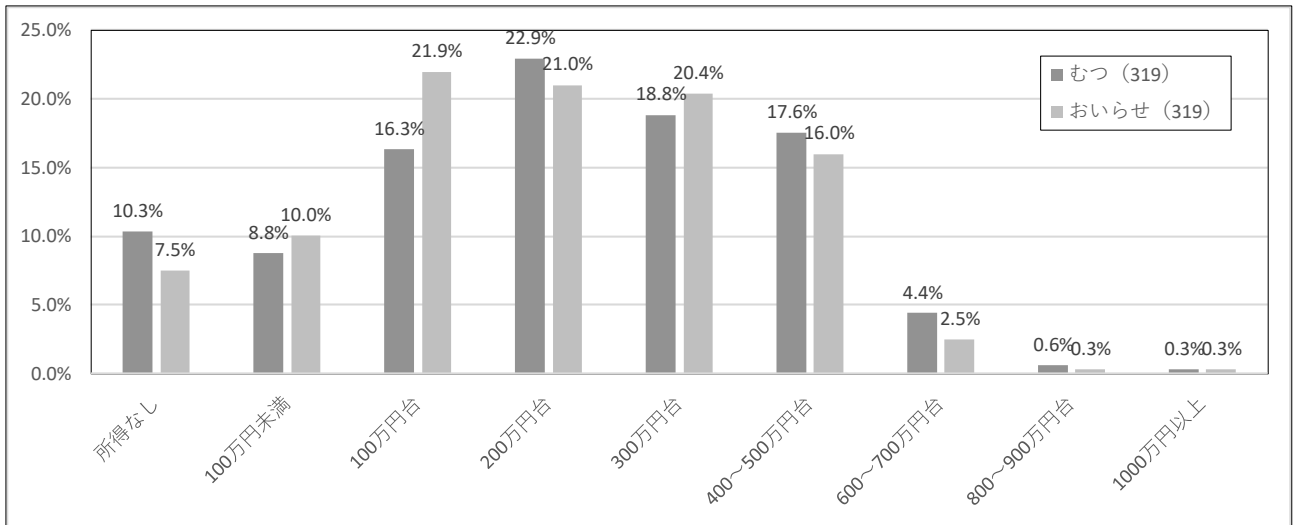


図7 個人年収 (F25_1)

注) () 内は回答者数。χ²検定の結果、5%水準で有意差なし。

表10は、個人年収（階級値を用いた平均）を属性別にみたものである。むつ市、おいらせ町ともに、女性より男性のほうが、独身よりも既婚のほうが、非大学・短大よりも大学・短大のほうが、個人年収は高くなっている。また、むつ市では、移動歴別で「ずっと地元」の個人年収が低い。おいらせ町では、年齢が高いほど、個人年収が高くなっている。

国税庁「平成29年分民間給与実態統計調査」によると、1年を通じて勤務した給与所得者の1人当たりの平均給与は、20~24歳262万円、25~29歳361万円、30~34歳407万円、35~39歳442万円である（国税庁長官官房企画課2018）。男性は、20~24歳279万円、25~29歳393万円、30~34歳461万円、35~39歳517万円となっている。女性は、20~24歳243万円、25~29歳318万円、30~34歳315万円、35~39歳313万円である。この全国平均と比べると、むつ市、おいらせ町ともに本調査の年収は低くなっている。

表10 属性別にみた「個人年収 (F25_1)」(万円)

		むつ			おいらせ		
		N	平均	検定	N	平均	検定
性別	男性	179	356	*	147	346	*
	女性	140	183		172	195	
年齢	20代前半	64	218	n. s.	55	198	*
	20代後半	66	312		79	227	
	30代前半	91	297		64	278	
	30代後半	98	285		121	313	
婚姻	独身	182	256	*	191	227	*
	既婚	126	320		117	323	
学歴	非大学・短大	208	253	*	197	249	*
	大学・短大	108	334		116	293	
移動歴	ずっと地元	75	203	*	67	241	n. s.
	Uターン	139	271		118	273	
	Iターン	96	352		116	276	

注) 平均は階級値を用いた算出。検定は性別・婚姻・学歴ではt検定（5%水準）。年齢と移動歴は分散分析（5%水準）。

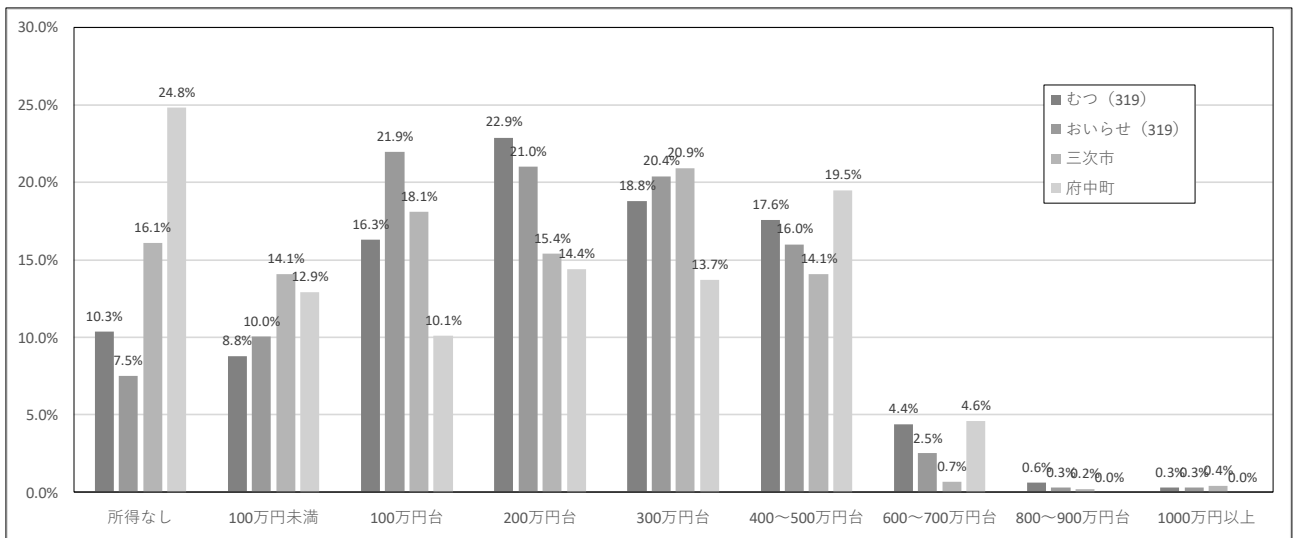


図8 個人年収 (F25_1) : 広島調査との比較

注) () 内は回答者数。広島調査については、各質問の回答者数は明記されていないため不明。

轡田が行った広島調査と比較したのが図8である(2016:136-137)。選択率が高いのは、三次市「300万円台」(20.9%)、府中町の「無収入」(24.8%)「400～500万円台」(19.5%)である。グループ化中央値は、三次市214万、府中町208万円となっている。広島の2地域は無収入の割合が高いこともあり、中央値は青森の2地域のほうが高くないっている。4地域の回答分布をみると、個人年収からも「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」の関係に関して多様性が見られる。

(3) 世帯年収 (F25_2)

回答者の世帯収入は、図9のようになっている。 χ^2 検定を行ったところ、2つの地域(むつ市・おいらせ町)で有意差は見られなかった。おいらせ町のほうが高収入層の割合が若干高くなっているが、選択率が最も高いのは、むつ市、おいらせ町ともに「400～500万円台」である(むつ市30.8%・おいらせ町25.3%)。階級値を使用して、平均値をもとめると、むつ市540.5万円、おいらせ町562.3万円である。また、中央値は、ともに500.0万円となっている。

総務省統計局の「平成25年住宅・土地統計調査」のデータ(9区分)でみると、むつ市は「200～300万円」(20.0%)、おいらせ町も「200～300万円」(18.3%)が最も世帯数が多くなっている。また、階級値を使用して世帯年収を求めると、むつ市346.7万円、おいらせ町383.2万円となる。この値は、世帯主の年齢を限定していないものであるが、今回の調査の世帯収入はやや高めとなっている。ただし、むつ市よりも、おいらせ町のほうが世帯収入が高い点は一致している。

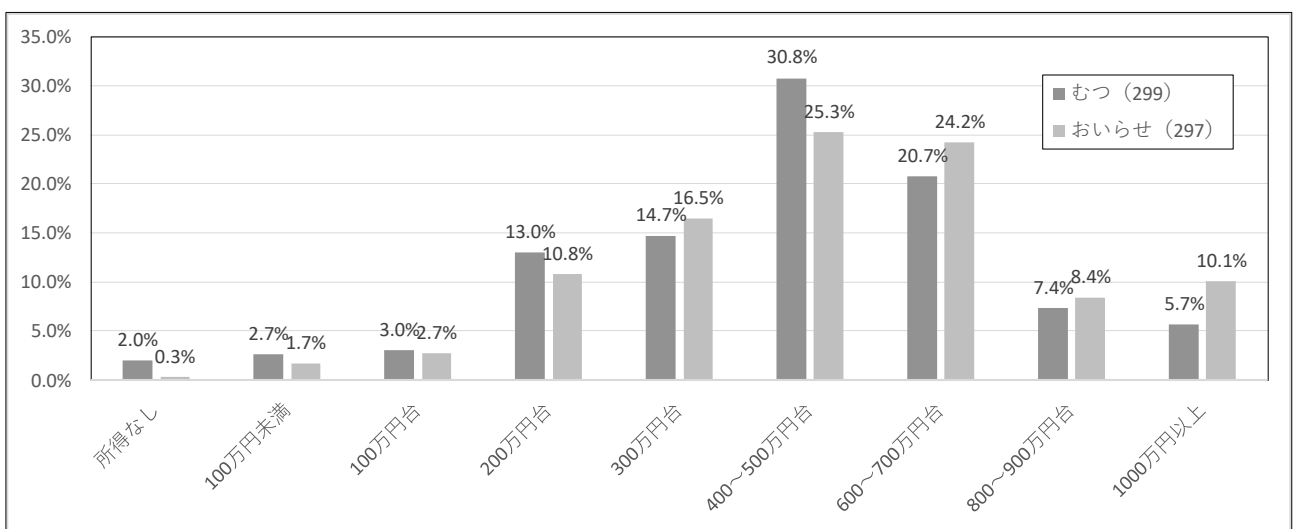


図9 世帯年収 (F25_2)

注) () 内は回答者数。 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差なし。

響田が行った広島調査と比較したのが図10である（2016:136-137）。選択率が高いのは、三次市「400～500万円台」（28.4%）、府中町の「400～500万円台」（34.7%）である。グループ化中央値は、三次市469万、府中町525万円となっている。「条件不利地域圏」よりも「地方中枢拠点都市圏」のほうが世帯収入が多いという傾向は、個人収入とは異なり広島と青森で共通している。

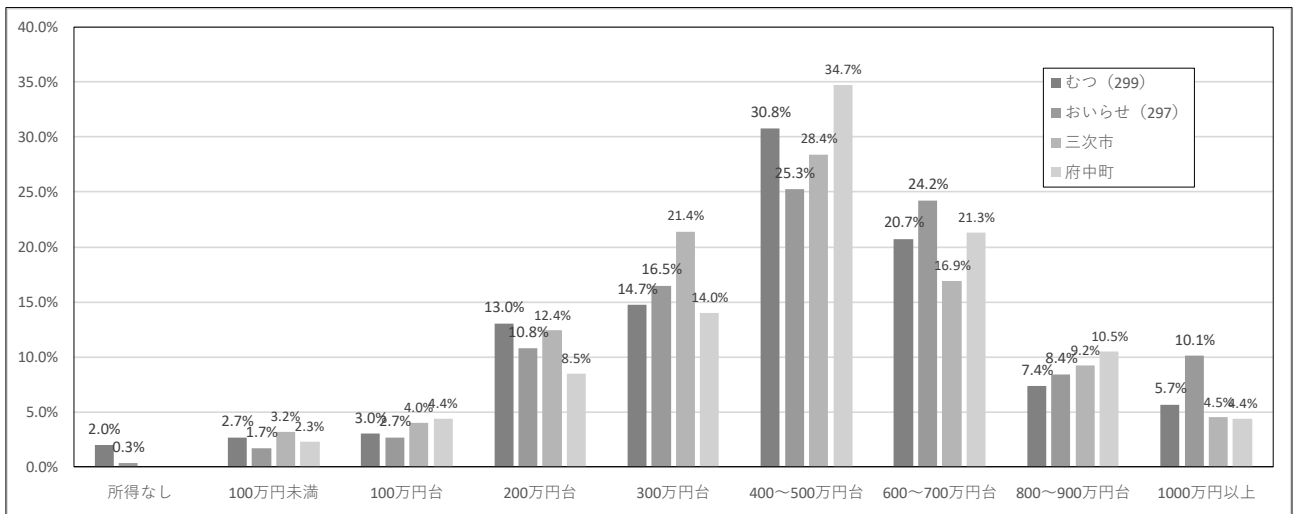


図10 世帯年収 (F25_2) : 広島調査との比較

注) () 内は回答者数。広島調査については、各質問の回答者数は明記されていないため不明。

6-4. まとめ

本章では、自身の人生に関する意識、日本社会や政治に関する意識、そして基本属性である学歴と年収についてみてきた。これまでの結果をまとめると次のようになる。

- 「自身の人生に対する評価」では、両地域とも「E自分は幸せだと思う。」で7割以上が肯定的回答をしており、幸福度が高くなっている。逆に、「C自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」は両地域とも肯定率が約4割にとどまり、異質な他者との出会いの機会はあまり多いとは言えない。
- 「人生に関する価値観」では、「B今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。」で肯定率8割以上、逆に「A今後の人生では、無理をしても、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」は肯定率が約4割にとどまっている。両地域とも「堅実志向」が強く、「チャレンジ志向」は弱いという傾向がみられた。
- 「日本社会や政治に対する評価」では、日本を全般としては安全で安心な社会としつつも、原発事故など個別の点に関しては不安を抱いている人々も少なくないようである。また、社会や政治に対して満足している人の割合は少なくなっている。
- 「日本社会と政治にかかわる価値観」では、次のような3項目ともに肯定率が5割を超えている（「A 国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」「B 社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。」「C 自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持って仕方がないと思う。」）。女性よりも男性で、愛国心を持つことを心がけており、政治的な関心も強い。また、地元以外での居住経験がある者に比べ、地元以外での居住経験の無い地元層は、政治的な無力感が強い傾向がある。
- 学歴は、両地域とも「大卒または大学院卒」が約2割、「高卒」約4割となっている。統計的に有意ではないものの、むつ市のほうが「大卒または大学院卒」および「高卒」の割合が若干高く、おいらせ町のほうが「短大または高専卒」「専門学校卒」の割合がやや高い。
- 個人収入（年収）は、選択率が最も高い選択肢は異なるが（むつ市「200万円台」、おいらせ町「100万円台」）、回答分布全体では有意差はみられない。階級値を使用して平均値を求めると、むつ市280.7万円、おいらせ町265.5万円となっている。
- 世帯収入（年収）は、選択率が最も高いのは、むつ市、おいらせ町ともに「400～500万円台」であり、回答分布全体で有意差はみられない。階級値を使用して平均値をもとめると、むつ市540.5万円、おいらせ町562.3万円である。

また、自身の人生に関する意識、日本社会や政治に関する意識、そして基本属性である学歴と年収、そのいずれにおいても、「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」と位置付けたむつ市とおいらせ町で統計的に有意な差は見られなかった。このことは、地方の多様性をとらえるための類型として、「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型の限界を示しているとも考えられる。

無論、地域差がまったくみられないわけではない。しかし、その差異は、「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」の間にはなかった。轡田が行った広島調査の2地域も加え、地域差をみてみると、「自身の人生に対する評価」や「日本社会や政治に関する価値観」では、「青森／広島」あるいは「東北地方／中国地方」の間に、それほど明瞭にはないが差がみられた。

また、学歴に関しては、「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」との関係性が逆転していた。広島調査では「条件不利地域圏」である三次市のほうが、「地方中枢拠点都市圏」である府中町よりも、高卒の割合が高く、大卒の割合が低くなっているが、青森ではそのような傾向はみられない。統計的に有意ではないものの、「条件不利地域圏」のむつ市のほうが、むしろ大卒の割合がやや高くなっていた。「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型化の観点からすれば、「地方中枢拠点都市圏」と「条件不利地域圏」の多様性を示すものといえるかもしれない。

「地方」が、「中央」との対比において一括りにされ、その多様性に目がむけられてこなかった、という轡田の指摘は、もっともなものである。しかし、今回の結果を素直に解釈するならば、地方内での差異は大きくないということになる。轡田が行った広島調査においても、各種満足度、幸福度において、有意な差がみられたのは、6項目中1項目、地域満足度のみであった（轡田2017:96）。地方に住む人々の多様性をとらえる視点としては、「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型が必ずしも有効とは言えないことが、今回の調査からも確認されたことになる。

今後は、調査対象地域を増やすことによって、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という類型化の有効性をさらに検証するとともに、「中央」との関係、差異にも着目しつつ（差異があるのかどうかということも含め）、地方に住む人々の多様性をとらえる新たな視点を模索していく必要もあるのではないだろうか。

【参考文献】

国税庁長官官房企画課2018『平成29年分 民間給与実態統計調査—調査結果報告—』

轡田竜蔵2016『平成26年度 公益財団法人マツダ財団委託研究「広島 20-30 代住民意識調査」報告書（統計分析篇）【第2版】』公益財団法人マツダ財団

轡田竜蔵2017『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房

文部科学省2018『平成29年度 学校基本調査』

総務省統計局2012「平成22年国勢調査 小地域集計 02青森県」

総務省統計局2012「平成22年国勢調査 小地域集計 34広島県」

総務省統計局2014「平成25年住宅・土地統計調査 都道府県編（都道府県・市区町村）02青森県」

総務省統計局2015「平成25年住宅・土地統計調査 都道府県編（都道府県・市区町村）34広島県」